



5:12 さて、イエスがある町におられたとき、全身らい病の人がいた。イエスを見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ。お心一つで、私はきよくしていただけます。」

5:13 イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに、そのらい病が消えた。

5:14 イエスは、彼にこう命じられた。「だれにも話してはいけない。ただ祭司のところに行って、自分を見せなさい。そして人々へのあかしのため、モーセが命じたように、あなたのきよめの供え物をしなさい。」

5:15 しかし、イエスのうわさは、ますます広まり、多くの人の群れが、話を聞きに、また、病気を直してもらいに集まって来た。

5:16 しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。

5:17 ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人と律法の教師たちも、そこにすわっていた。彼らは、ガリラヤとユダヤとのすべての村々や、エルサレムから来ていた。イエスは、主の御力をもって、病気を直しておられた。

5:18 するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のままで運んで来た。そして、何とかして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとしていた。

5:19 しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないので、屋上の上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寝床を、ちょうど人々の真中のイエスの前に、つり降ろした。

5:20 彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。あ

なたの罪は赦されました。」と言われた。

5:21 ところが、律法学者、パリサイ人たちは、理屈を言い始めた。「神をけがすことを言うこの人は、いったい何者だ。神のほかに、だれが罪を赦すことができるよ。」

5:22 その理屈を見抜いておられたイエスは、彼らに言われた。「なぜ、心の中でそんな理屈を言っているのか。」

5:23 『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。

5:24 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに悟らせるために。」と言って、中風の人に、「あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。

5:25 すると彼は、たちどころに人々の前で立ち上がり、寝ていた床をたたんで、神をあげめながら自分の家に帰った。

5:26 人々はみな、ひどく驚き、神をあげめ、恐れに満たされて、「私たちは、きょう、驚くべきことを見た。」と言った。

イエス様は旧約に預言された救い主であるというしるしに、癒しをなさいました。それは罪の赦しも関連することです。しかし、その癒しによって人々を驚かせて信仰に入れようとはなさいませんでした。あくまでも信仰は、身代わりの十字架を信じることによる、罪の赦しによらなければならぬからです。そうでないと、神様との関係が回復しないからです。

ですからイエス様は「だれにも話してはいけない。」とおっしゃったのです。ただし旧約の律法を尊重することは正しいことなので、「祭司のところへ行って…」とおっしゃいました。

主の働きをするのは尊いことですが、その役割と時を踏まえることは、役に立つためには重要で

す。
中風の人の癒しによって、イエス様は信仰の何たるかを表しておられるようです。友の癒しのために、協力する姿に真の共同体があります。主は共同体に働く聖霊によってみわざをなしてくださいます。そのことをチャレンジしてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

